

令和 5 年 9 月 7 日  
国土交通省住宅局

令和 5 年度空き家対策モデル事業（二次募集）の応募状況  
及び評価委員会による評価の概要

1. 応募概要

- ・ 応募期間：令和 5 年 6 月 22 日～同年 7 月 26 日
- ・ 応募総数：59 件、採択総数：34 件

(1) テーマ別・提案区分別の応募・採択数

(単位：件)

	ソフト提案部門				ハード 提案部門	合計	
	ソフト型		ソフト・ハード 一体型				
	応募	採択	応募	採択	応募・採択	応募	採択
テーマ 1	17	10	6	2	0	23	12
テーマ 2	11	8	7	3		18	11
テーマ 3	10	6	8	5		18	11
合計	38	24	21	10	0	59	34

※テーマ 1：空き家に関する相談対応の充実や空き家の発生抑制に資する官民連携体制の構築等

テーマ 2：空き家の活用等に資するスタートアップなど新たなビジネスモデルの構築等

テーマ 3：新たなライフスタイルや居住ニーズに対応した空き家の活用等

(2) 事業地域別の応募・採択数

(単位：件)

	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州・ 沖縄	全国・ 複数 地域
応募	0	3	16	5	2	7	3	1	16	6
採択	0	1	10	4	1	3	1	1	10	3

## 2. 評価委員会による評価の概要

### (1) テーマ 1

相談窓口等の空き家対策の執行体制整備が必要な地域において、多様な主体による連携体制構築、相談・普及啓発等の取組実施に係る提案を求めるものである。

#### (概要)

- ・ 特に高く評価された提案としては、これまで地域の空き家対策に取り組んできた事業主体が、多様な主体と連携することで空き家の発生抑制に繋げる発展的な取組を行う提案や、「空家等対策の推進に関する特別措置法」において新たに規定された空家等管理活用支援法人の指定を目指す提案、効率的な空き家調査や普及啓発に係る提案等が挙げられる。これらの提案では、これまで空き家対策に取り組む中で気づいた課題を工夫して解決を図る提案が多く、具体性も高いものが多く見られた。
- ・ 評価が低い傾向にあった提案としては、連携体制の構築が不十分と思われる提案や、モデル性に欠け、他の事業者への波及性が見込まれないと判断された提案が多くみられた。

### (2) テーマ 2

異業種間の連携やデジタル技術の活用等により、空き家の調査・活用・除却の推進に資する新たなビジネスモデルのスタートアップに係る取組の提案を求めるものである。

#### (概要)

- ・ 地域の課題を空き家対策に限らず正確に捉え、他の地域課題の解決も図ることで相乗的な効果の発揮を図る提案、空き家対策に係る手法や取組の出口として新たなビジネスモデルを構築する提案等が高く評価されている。また、これらの提案に加えて、デジタル技術活用により課題解決を図る提案等、今後の波及性・全国的な横展開が望まれるものが高く評価される傾向にあった。
- ・ 評価が低い傾向にあった提案としては、事業趣旨と異なる提案や、取組内容の具体性・実現可能性に欠ける提案、新規性の低い提案がみられた。

### (3) テーマ 3

移住、二地域居住等の新たなライフスタイルや居住ニーズ等に対応した多様な用途への活用・流通促進に資する取組の提案を求めるものである。

#### (概要)

- ・ 特に高く評価された提案としては、新たな地域の需要創出に繋がる、移住や観光、宿泊等に焦点を当て、空き家の活用を促すために創意工夫が図られた提案や、多様な居住ニーズに対応するための利活用手法の構築に係る提案が多くみられた。採択された提案では、具体性・実現可能性が高い傾向にあった。
- ・ 新たなニーズに対応する取組であるからか、事業の実現可能性が低い提案や、波及性の低い提案が散見され、これらの提案は低い評価となる傾向にあった。